

国立病院機構熊本医療センター

No.153



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096)353-6501(代)  
FAX (096)325-2519

## 平成21年度第2回(通算第28回)開放型病院連絡会開催される

平成21年度第2回開放型病院連絡会は、登録医の先生方をはじめ看護師、MSW、事務の方なども含めて多数の皆様に参加していただき、2月20日(土曜)18時30分より当院2階の研修センターホールにて開催されました。開始に当たり、池井院長がご参加の皆様にお礼を述べた後、新病院での診療状況、旧本館の撤去予定とそれに伴うヘリポート、駐車場の整備などをご報告致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員の熊本市医師会副会長加来裕先生よりご挨拶をいただきました。加来先生は、この開放型病院の意義を再確認され、益々開放型病院の先生方と本院の病診連携が進むことを希望される旨お話しいただきました。続く全体会議では、熊本市医師会理事の家村昭日朗先生と、私が進行を担当し、症例呈示として、藤本和輝循環器内科医長による「128列CTによる冠動脈CTについて」、中島健歯科・口腔外科医長による「ビスフォスファネート(BP)製剤による顎骨壊死について」の講演がありました。続いて、片渕茂地域医療連携室長から、a)共同指導手順について b)インターネットで行う次世代型の地域医療連携システムの紹介を行いました。最後に、熊本市歯科医師会会長清村正弥先生より、当開放型病院と歯科医師会との関係のご挨拶をいただき、全体会議をまとめていただきました。その後、特別講

演に入り、厚生労働省医政局総務課 医療安全推進室長 中野 滋文先生より、“我が国の医療提供体制について”の演題でご講演いただきました。次年度の診療報酬改正を含めた非常に広範な内容にもかかわらず、非常にご丁寧にわかりやすいお話でした。ご参加いただきました皆様方にもきっとご満足いただけただご講演であったと思います。前回に続き医師以外の方の参加者も多く、大変実りの多い連絡会になったと思われます。この会の成果として、病病・病診連携がさらに充実しますことを期待しております。

(副院長 河野 文夫)



加来 裕先生のご挨拶

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



## 祝 熊本医療センターご新築

医法) 博和会 桜間脳神経外科  
理事長 桜間 信義

病院の新築おめでとうございます。きついと言われていた坂の問題は解決され、病院の内容はさらに充実し、患者様には喜ばしいことと思います。私は熊本医療センターを一番頼りにし、しかし一番迷惑をかけている医師だと思います。このような私がこの度VOICEに投稿させていただくことを名誉に思います。

近年医療崩壊と言われていますが、報道される内容は救急医療を行っておられる大きな病院の現場であり、開業医はあまり関係ないように言われており、また収入も開業医が勤務医よりかなり高いように書かれています。真実がどうであるかは個人情報保護を強く言われる現代では私には良くわかりません。報道や情報を正確にさせていただくことに頼るしかないようです。しかし、今私は患者様に必要とされるためには何をすればよいか良くわかりません。以前、外来で患者様に「夜中でも往診されていたM先生のような先生がどこか

におられませんかね。」と聞かれたことがあります。私もそういう医療をしたいと思っていました。私も10年くらい前まで救急診療所の指定を受けていました。睡眠不足も体力で何とかのりきり年間300台ほどの救急車を受け入れていた頃もあり、その頃それでも熊本県で救急受入れ医療機関の4位ぐらいのこともありました。しかし、健康保険法や救急法が変わり、また年をとり能力は落ちる一方で、現在救急指示はうけていません。また小さい頃から不眠症であり、今は少量のお薬を利用しています。医療崩壊と言われる救急現場の状況に対して私はどう対応してよいかわかりませんが、とにかく熊本医療センターを頼りにし迷惑をおかけすることをお許しいただきたいと思います。私の診療所は救急医療機関の指定を今は受けていませんが、365日常に医師が常在する体制は取っていて、また祭日には昼間は診療して、一応は頑張っています。

先に述べましたM先生に後日お会いしました時に、患者様に言われたことを話しましたところ、M先生は「夜中の往診を頑張っていたが胃潰瘍になり、大量の吐血と下血をし輸血を受け、その為に血清肝炎になった。」と話されました。世の中に必要なのは真実とバランスではありますが、一部を報道で知ったり理解するだけでは複雑な医療の仕組みの困難さを解決する事は出来ない様に思います。ご苦労ですがとにかく熊本医療センターの頑張りを頼りたいと思います。

VOICEでは写真の掲載が吉例になっていますが、普段写真とは縁がなく写真を掲載できないことをおゆるしください。

## FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

(経営企画室長 末次 剛輝)

## 平成21年度 第2回

## 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成21年度第2回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が平成21年2月2日（火）午後7時より当センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは清村正弥会長、藤波好文副会長、渡辺猛士専務理事、宮本格尚医療管理理事、高橋禎医療管理委員長が出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、高橋救命救急部長、中島歯科口腔外科医長が出席しました。

池井院長、清村会長からあいさつの後、議事に入りました。事務局より、医科・歯科紹介率ならびに地域医療支援病院紹介率の報告がありました。医長が就任1年目で多少昨年をやや下回っており、中島より登録医の増加、地域への溶け込みなどの方策を報告し、さらなる歯科医師会へのご協力をお願いしました。

次いで高橋部長より平成21年1月～12月の歯科口腔外科救急症例数は132名とほぼ前年並みで特に外傷の割合が多いことが報告されました。

次に毎年大変好評で参加者が多い歯科医師とスタッフ対象の救急蘇生講習会が来年度も平成22年11月11日（木）に開催されることを報告しました。合わせて、当院研修センターを利用する熊本有病者歯科医療研究会の医歯連携セミナーが平成22年度に3回、臨床口腔外科研究会の口腔外科セミナーが2回開催されることも報告致しました。

続いて河野副院長から平成21年度第2回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が平成22年2月20日（土）に当院研修センターにて開催され、特別講演として厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長・中野滋文先生の「我が国の医療提供体制について」を予定していることが案内されました。

最後に、市歯科医師会側から、医科研修医の歯科研修の提案と、B P 製剤の顎骨壊死についてのアナウンスの必要性についての提案があり、今後の検討事項と致しました。

（歯科口腔外科医長 中島 健）

## 平成21年度九州ブロック院内感染対策研修会開催報告

くまびょうNEWS152号でご案内しました通り、去る1月20日（水）より23日（金）の3日間にわたり、国立病院機構九州ブロック主催による、平成21年度の院内感染対策研修会が、当院研修センターにて開催されました。対象者は、国立病院機構の各施設から推薦された院内感染対策を担う医師8名、看護師6名、薬剤師1名です。また、国立病院機構以外の病院職員も数多く聴講されました。

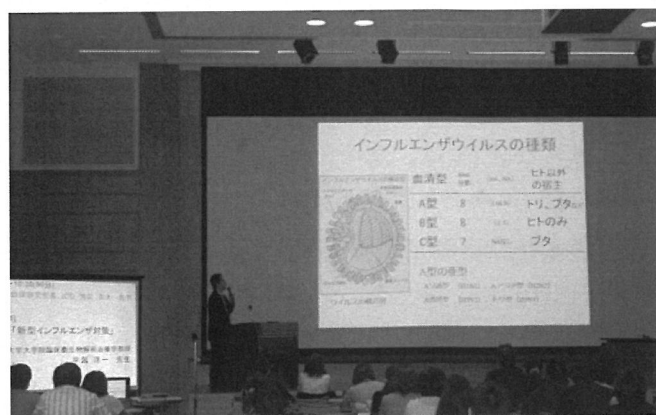
本研修では、全国学会等で著名な外部講師14名にお願いし、当院からも検査科の川崎達也主任が「院内感染対策サーベイランスシステムの構築」、浅尾香恵皮膚科医長が「疥癬の院内感染対策」、青木浩則眼科医長が「流行性角結膜炎について」、武本重毅血液内科医長が「血液幹細胞移植における院内感染対策の実践」、日高道弘血液内科医長が「血管カテーテル由来血流感染対策」、柏原光介呼吸器内科医長が「人工呼吸器関連肺炎対策」について講義して頂きました。

今回のトピックスは、東北大学大学院臨床微生物学教授・平瀧洋一先生の「新型インフルエンザ対策」でした。本講義では、地球上にこれまで発生した新型インフルエンザの歴史、現在世界中に蔓延して

いるH1N1型鳥インフルエンザの疫学および病態、ワクチンの効果と副作用、感染予防策の効果などを詳細に教えて頂きました。

本研修会は、我が国における院内感染対策を主導するトップの方々による最新且つ最高の知識を提供するとともに、市中病院における院内感染対策の問題点を掘り下げ、改善策を見出すことができた有意義なものであったと思います。

最後に、御協力を頂きました多くの職員の方々に厚く御礼申し上げます。（臨床研究部長 芳賀 克夫）



講義の様子

# 新病院施設紹介〈4〉

## 手術センター

1. 手術管理ビジュアルシステム



2. 心臓手術風景、手前人工心肺装置



3. 中央材料部



4. ME室 人工呼吸器



人（技術）や物品（器械）を供給する中央部門が充実することは、病院機能として大切なことです。麻酔科が管理する手術室、材料室、ME室、ICUはそういう部門です。新病院建設に伴いその広さは2倍となり皆様の依頼症例の増加においても対応しやすくなりました。手術室は5階に位置し部屋数を10室と致しました。1号室は心臓手術、2号室は脳手術、3号室はバイオクリンルーム（2ベット）、4号室は感染手術（陰圧室）、5から7号室は開腹手術、8と9号室は感覚器の手術、10号室は急患手術室と部屋自体に目的性をもたせました。また、画像システムを充実させて入口受付より手術の進行状況が把握できるようにすることや医師の学会発表や資格審査への画像提供を行いやすいようにいたしました。一方、設計上苦労した点は、他の部門との連携です。手術した重症患者の術後管理として搬送しやすいようにICUは、同じ階に設計しました。

麻酔科の部門では、長年使った麻酔器を廃棄し治療用人工呼吸の機能を備えた麻酔器を購入しました。また、パルスオキシメーター、カプノメーターはもちろんのこと患者管理の安全性を増すためBIS（麻酔深度計）、INVOS（脳内酸素飽和度測定装置）、APCOシステム（非侵襲的循環系モニター）、経食道エコーなどを導入できるようになりました。

中央材料部門では、一次洗浄を中央で行うことのシステムおよび手術症例の増加をみこして、ウォッシャーディスインフェクター、超音波洗浄器、オートクレーブ、EOG、プラズマ滅菌器の更新、増設を行いました。

（麻酔科部長 江崎 公明）

2010

## 診療科紹介 (22)

画像診断・治療センター

## 放射線科



医長

吉松 俊治

放射線診断、IVR

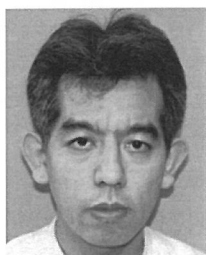
日本医学放射線学会専門医  
熊本大学医学部臨床教授

医長

浅尾 千秋

放射線診断、IVR

日本医学放射線学会専門医



医師

荒木 裕至

放射線診断、IVR

日本医学放射線学会専門医



医師

富高 悦司

放射線治療、放射線診断

日本医学放射線学会専門医  
日本がん治療認定医機構認定医

医師

吉田 絵里

放射線診断・IVR

放射線治療



医師

井上 聖二郎

放射線診断・IVR

放射線治療

## 診療内容・特色

当院は放射線科全部門における放射線科専門医修練機関です。放射線科スタッフは画像診断専門医3名、治療専任医1名、放射線科医2人、放射線技師19名で画像診断、IVR（画像診断を用いた経皮的治療）、放射線治療の3部門を担っています。

平成21年9月23日の新病院開院時に、CT装置3台、一般撮影装置（静止画FPD）、FPD搭載X線テレビ装置、放射線治療装置（リニアックとラルス）および治療計画装置の新規導入と更新を行いました。

画像診断部門では、CT装置2台（128列と64列マルチスライスCT）、MRI-1.5T装置2台、X線テレビ装置（DR）2台、核医学検査装置、血管造影装置（FPD搭載）、心血管撮影装置、乳腺撮影装置、一般撮影装置（CR装置2台とFPD装置4台）が稼働しています。128列マルチスライスCT（シーメンス社製）では、3次元CTに時間軸を加えた4次元CTが撮影可能となり、

診断目的の侵襲的な血管造影はほぼ不要となりました。MR血管撮影ではスクリーニングで造影剤を用いることなくきれいな脳動脈の画像が得られています。

IVRでは肝癌、膀胱癌、子宮癌を中心に塞栓術および動注化学療法や、救急症例における腹部骨盤出血の緊急止血術を行っています。侵襲的な経動脈性の血管造影は治療を前提としたIVR症例でのみ施行されています。

平成22年4月に地域医療連携システムが稼働予定です。紹介患者予約と共に、外来MRIや骨シンチの検査予約を院外からオープン予約可能にする予定です。院外への画像配信はCDによる運用を行っていますが、近いうちに画像や画像診断レポートを院外Web参照可能にする予定です。

放射線治療部門にはリニアックと遠隔腔内照射装置（ラルス）があり、悪性リンパ腫、乳癌（乳房温存術後）、頭頸部癌、子宮癌、前立腺癌等の症例を中心に良好な成績をおさめています。当院では小児と成人の骨髄移植が行われており、成人の骨髄移植における全身照射は県内唯一の施行機関です。新しいリニアックの導入により、さらに照射の精度を高めることが可能になりました。今後は体幹部定位照射も視野に入れています。

## 診療成績

平成21年の検査治療件数はCT 19,800人、MRI 6,100人、核医学 639人、血管造影（IVR）331人です。放射線治療は年間260人でうち新患が220人でした。

（次ページにつづく）

(前ページより)

## 研究実績

- Human cerebral cortices: Signal variation on diffusion-weighted MR imaging Chiaki Asao, Toshinori Hirai, Shunji Yoshimatsu, et al, Neuroradiology 50 : 205-211, 2008
- 多時相CTAngio (Adaptive 4D Spiral) が診断に有用であった椎骨動脈解離の2例 井上聖二郎 吉田絵里 荒木裕至 浅尾千秋 富高悦司 吉松俊治 山下康行 第170回日本医学放射線学会 九州地方会 平成22年2月14日
- 多彩な画像所見を示したBaltomaの1例 吉田絵里 河中功一 山下康行 猪山賢一 第168回 日本放射線学会 九州地方会 平成21年2月15日
- 肝細胞癌の骨転移に対する放射線治療：腫瘍縮小効果についての検討 吉田絵里 村上龍次 斉藤哲雄 東家亮 坂本隆吏 大屋夏夫 西潤子 石塚恵未 宮尾昌幸 第168回 日本放射線学会 九州地方会

平成21年2月14日

- 抗グルタミン酸受容体自己抗体が陽性であった脳炎の1例 浅尾千秋 荒木裕至 富高悦司 吉田絵里 吉松俊治 幸崎弥之助 平井俊範 山下康行 高橋幸利 第169回 日本医学放射線学会 九州地方会 平成21年7月4日

## ご案内

外来検査予約は放射線科受付096(353)6501(代)(内線3201)に電話で予約した後、専用の画像検査予約ファックス送信票(診療情報提供書兼紹介状)を医事課へFAX(096-323-7601)もしくは病診連携室へメールお願い致します。画像検査予約ファックス送信票および検査予約の手順と注意事項を病院ホームページに掲載致しますのでご利用下さい。冠動脈CTは脈拍低下の前投薬投与をしますので、循環器外来受診の予約をお願い致します。

放射線治療外来は予約制で月火木金に新患外来を行っております。事前に放射線治療医富高(内線5812)までご連絡くださいますようお願い致します。

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ 42回

## 血中プロカルシトニン値による外因性救急病態の評価

救急科医長 原田 正公



プロカルシトニン (PCT: Procalcitonin) とは116個のアミノ酸からなる分子量13kDのポリペプチドです。全身性感染症、特に細菌感染症で上昇し、ウイルス感染症や局所の細菌感染症ではほとんど上昇しないといわれています。プロカルシトニンは正常状態では甲状腺のC細胞で産生され、代謝によりカルシトニンとなり甲状腺外に分泌され、プロカルシトニンは血中へ放出されませんが、細菌感染やサイトカイン、エンドトキシンなどの刺激を受けると、全身の臓器からプロカルシトニンが産生されプロカルシトニンが上昇します。現在では細菌性感染症・敗血症のマーカーとしてプロカルシトニンは重要な検査として位置づけられています。しかし、その一方で熱傷や外傷でプロカルシトニンが上昇する例は多数報告されております。

現在、内因性病態である細菌感染症の重症度指標として確立されているPCTが、外傷・熱傷・熱中症などの外因性病態の重症度・予後の指標となりえるかを調べることにしました。

外傷において、当院で行いました事前調査ではISS (Injury Severity Score) >20でPCTの上昇がありそ

うです (図)。

今後、2010年4月1日~2011年12月31日の期間、全国の国立病院機構救命救急センター11施設において共同調査を行っていく予定としております。

外傷・熱傷においては身体の少なくとも1区分での

AISスコア (AIS-90 update98) が3点以上の症例を、熱中症においてはⅢ度 (安岡分類) (従来診断における熱射病) を対象として、入院時及び入院翌日のバイタルサインや白血球・CRP・プロカルシトニンのデータなどを収集していこうと考えております。

性	受診時PCT	翌日PCT	ISS
M	<0.1	<0.1	16
F	<0.1	1.9	22
M	<0.1	<0.1	1
F	<0.1	<0.1	1
M	<0.1	<0.1	1
F	<0.1	0.2	22
F	<0.1	<0.1	1
M	<0.1	<0.1	5
M	<0.1	<0.1	4
F	<0.1	1	50
F	<0.1	<0.1	0
F	<0.1	<0.1	4
M	<0.1	<0.1	9
M	<0.1	<0.1	20
F	<0.1	0.9	4
M	<0.1	<0.1	4
M	<0.1	<0.1	4

### 最近のトピックス

#### 腫瘍性骨軟化症とFGF23



内科部長

東 輝一郎

腫瘍性骨軟化症(tumor induced hypophosphatemic osteomalacia:TIO)は腫瘍が産生するFGF23(fibroblast growth factor 23)により低リン血症を引き起こす疾患です。

2003年TIO患者において血中FGF23値が高値を示すことが(N Engl J Med)、また腫瘍の摘除により血中FGF23値が低下し血中リン値も正常化することが報告されました(JCEM 2004)。

FGF23はもともと骨によって産生され、腎近位尿管でのリン再吸収を抑制する作用(Na/P cotransporterの発現低下)と共に腎での1,25(OH)<sub>2</sub>D産生を抑制する作用があります。このためFGF23は生理的に血清リンとビタミンDを調節する重要な因子として注目されるようになりました(右図)。

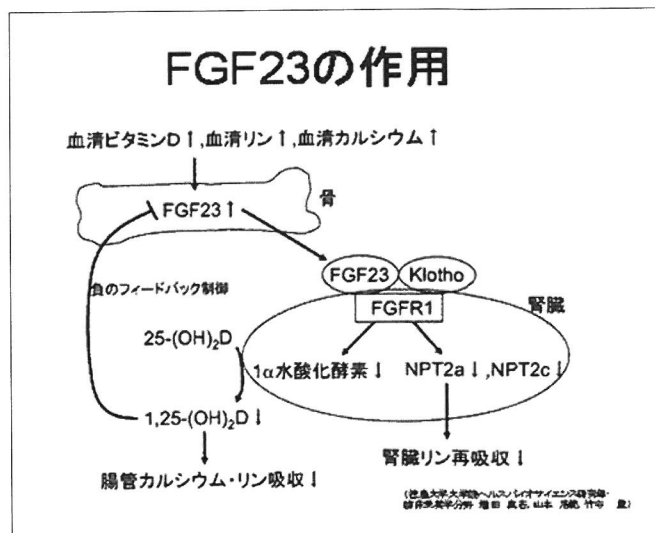
糖尿病・内分泌内科で治療中の1例を紹介します。症例は78歳の女性。62歳の時左大腿部骨折、70歳の時腰椎圧迫骨折を起こしています。71歳の時、全身の痛み、低リン血症を主訴に整形外科より当科へ紹介されました。TIOを疑いCT、MRIおよびFDG-PET検査用いて全身くまなく検索しましたが腫瘍は見つかりませ

んでした。

このため大量の活性型ビタミンD製剤(カルシトリオール)を投与し対症的な治療を行って来ました。最近になってFGF23の測定が可能となり、血中FGF23値が225pg/ml(正常値10-50pg/ml)と高値でありTIOと診断することが出来ました。

TIOは腫瘍が小さい事が多く、腫瘍が判明する症例は約半数といわれ局在診断の難しい疾患です。腫瘍は良性の間葉系腫瘍が多く、ソマトスタチンアナログであるoctreotideシンチグラフィーや全身のFGF23静脈サンプリングが局在診断に有用との報告があります。

治療としては腫瘍の除去が最善の治療となります。一方腫瘍の局在が不明の場合は、リン製剤と活性型ビタミンD製剤を同時に、あるいは活性型ビタミンD単独で治療を行います。これらの治療ではなかなか血清リン値が正常化しないのが問題です。なお大量の活性型ビタミンDを長期に投与するため高カルシウム血症や腎結石を起こさないように十分な注意が必要です。



ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 みやかわ 宮川 ゆうすけ 雄介



平素より大変お世話になっております。研修医1年目の宮川です。昨年3月に熊本大学を卒業し、4月よりこの熊本医療センターで初期研修をスタートしました。熊本医療センターでは来年3月まで研修させていただき予定です。本年度の前半は内科でローテーションを行い、呼吸器内科、血液内科、神経内科で勉強させて頂きました。新病院に引っ越したばかりの10月からは救急部に所属、12月からは外科で研修をしています。

さて、当院は新病院へ引っ越して3カ月が過ぎたところです。フロア面積は広くなり、設備や部署も大き

く配置換えしたため、はじめの数週間は院内で道に迷ってばかりでしたが、今ではだいぶ馴染んで参りました。病室からの眺めも素晴らしく、病棟も広々として明るくなり、患者様達から耳にする評判も上々のようです。

新しい救急外来は、ベッド数が実質以前の倍ぐらいになりましたが、救急搬送が多い時にはそれもいっばいになるほどです。診察をしてバイタルや病歴を素早く把握し、適切な検査をオーダーして病態を評価したり、まだまだ自分の力では不十分なことばかりで、上級医の先生方にご指導いただきながら日々勉強している毎日です。今は外科で研修していますが、年末年始も救急外来受診から緊急手術になる症例も少なくありませんでした。そしてこの数カ月は、病棟で重症の患者さんを担当することも多く、人工呼吸器管理などを多く経験しました。救急医療を中心に様々な経験をさせて頂いています。

新年を迎えて気持ちを新たに、診療と勉強に励みたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 医学生の為の病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課鶴見（TEL096-353-6501）迄ご連絡下さい。

※見学の際は、白衣と大学名、氏名の記載してある名札をご持参下さい。

詳細については：<http://www.hosp.go.jp/~knh/> まで

## 第6回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

（日本医師会生涯教育講座3単位認定）

この度、第6回二の丸肝臓談話会を下記の要綱にて開催したいと存じます。

何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

内 容：

教育講演 座長：庄嶋医院 院長 庄嶋 健 先生

1. 「インターフェロンによる注意すべき血液毒性について」

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 日高 道弘

2. 「インターネットを用いたインターフェロン地域連携」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋

3. 「インターネットを用いた地域連携クリティカルパスの幕開け」

国立病院機構熊本医療センター外科部長 地域医療連携室長 病院情報室長 片渕 茂

日 時：平成22年3月8日（月）19：30～20：45

場 所：国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センターホール

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519



# 研修のご案内

## 第103回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成22年3月10日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「腹部疾患」

国立病院機構熊本医療センター外科部長 片渕 茂  
 国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 三森 寛幸  
 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋  
 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 菊川 浩明

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第9回 熊本EBMセミナー

日時▶平成22年3月13日(土)10:00~12:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

司会 国立病院機構熊本医療センター 研修部長 清川 哲志

講演 「臨床データの解析法ー統計ソフトのデモンストレーション」

講演者 国立病院機構熊本医療センター 臨床研究部長 芳賀 克夫

今回のテーマは統計解析法で自験例を基に、臨床データの取り方や解析の方法、論文投稿の際の注意点等を、実際の統計解析ソフトを用いて解説します。奮ってご参加下さい。なお外部の方ももちろん参加できます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 芳賀 克夫 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第134回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成22年3月15日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「肝硬変を伴わない高アンモニア血症の3症例」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科 二口 芳樹

4. ミニレクチャー「腹水採取濃縮再静脈投与について」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科 中田 成紀

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第103回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成22年3月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「糖尿病と歯周病」

国立病院機構熊本医療センター 歯科口腔外科医長 中島 健

2. 「側頭動脈炎を合併した2型糖尿病の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 花谷 聡子

3. 「SU薬とシベンゾリンにより低血糖を起こした2型糖尿病の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長 豊永 哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

# 2010年 研修日程表 3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修センターホール	研修室	その他
1日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
2日(火)			15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
3日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
4日(木)		18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
5日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
8日(月)	19:30~21:00 第6回 二の丸肝臓談話会		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
9日(火)			15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
10日(水)	18:30~20:00 第103回 救急症例検討会「腹部疾患」		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
11日(木)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会		7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
12日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
13日(土)	10:00~12:00 第9回 熊本EBMセミナー		
15日(月)	19:00~20:30 第134回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
16日(火)			15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
17日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研3)	17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
18日(木)		19:00~20:45 第103回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
19日(金)		19:30~21:00 有病者歯科医療研究会(研3)	8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
23日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
24日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
25日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
26日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
29日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
30日(火)			15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
31日(水)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 外来 小児科外来 6北 6階北病棟 消 消化器病センター 読影室 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)